

# 編集後記

幼児が「見通しをもつ」ということについて、岩田先生、藤江先生の文章から考えさせられた。

登園途中、保育園の年長組の娘が「あといくつ」と突然きいてくる。

「何が」と問い返すと、「電車で山に行くの」。その寸前まで交わしていた会話の脈絡とは全然関係のない話題に転じたので、こちらとしては、頭を切り替えるのに時間を要したほどだった。「あと十三回ねるのよ」と答える。「楽しみだな。でも迷子になったらどうしよう」。娘の生活の底に流れる水に、家族で山へ行くことが色を染め出したのだな、と思った。それにしても「迷子になる」こと

を最近しきりに心配する。「おかあさんにくつついていれば大丈夫よ」と言っても、どうもそういうことではないらしい。そういえば、幼児期の「迷子になる」恐怖はまさしく凄

いものだったことを思い出す。「見通し」を失うどころか、「この世の終わり」に近い恐ろしさであった。一月ほど前、彼女は時計の長針の読みの（五分おきの）一目盛りについて「もしかして、五、十、五、十、つてかわりばんこになっているの」と気づいた。そして「Aちゃん（自分の名前）は昨日までなんてばかだったんだろう」と叫んだ。時の流れを手中にし始めたのか、同時に「迷子になる」怖れも生じている。

今、彼女は来春の入学を楽しみにしている。幼小連携の現状をかんがみると複雑な思いである。（浜口）

## 幼児の教育

第一〇三巻 第十一号

(二〇〇四年十一月号)

定価五五〇円(本体五二四円)

発行 平成十六年十一月一日

編集兼発行人 浜口順子

発行所 日本幼稚園協会

〒112-8610 東京都文京区大塚二一一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108-8620 東京都港区三田五一一

発売所 株式会社 フレーベル館

〒113-8611 東京都文京区本駒込

六一一四一九

☎〇三―五三九五―六六一三(営業)

☎〇三―五三九五―六六〇四(編集)

振替 〇〇―一九〇―一一一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。

☆ 万一、乱丁・落丁などがございましたら、おとりかえいたします。